

- 問1 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。 (2024年 大阪公立入試 類似)
1. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島 2. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛んだった福岡県の博多 3. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水 4. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口にあたる千葉県の大網浦
-
- 問2 室町時代後期、応仁の乱をきっかけに幕府の権威が衰えると、実力で領地を拡大する戦国大名が登場しました。彼らが自らの領国内の武士や民衆を統治し、秩序を維持するために独自に定めた法を何とといいますか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
-
- 問3 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。 (2018年 静岡公立入試 類似)
1. 応仁の乱 2. 観応の擾乱 3. 壬申の乱 4. 承久の乱
-
- 問4 フランシスコ=ザビエルによる日本での活動に関する説明として、最も適切なものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。 2. 織田信長と会見し、京都での布教と南蛮寺の建設を許された。 3. 大名らに勧め、天正遣欧少年使節をローマへ派遣させた。 4. 種子島に漂着し、領主の種子島時堯に鉄砲を伝えた。
-
- 問5 戦国時代の越前国（現在の福井県）を支配した戦国大名の朝倉氏は、一乗谷を拠点として領国支配を行いました。このように、戦国大名が領国内を独自に統治するために制定した法を何とといいますか。 (2024年 滋賀公立入試 類似)
1. 分国法 2. 武家諸法度 3. 御成敗式目 4. 建武式目
-
- 問6 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. ポルトガル 2. スペイン 3. オランダ 4. イギリス
-
- 問7 日本の戦国時代に相当する16世紀、ヨーロッパではキリスト教のあり方をめぐって大きな動きがありました。カトリック教会の腐敗を批判し、聖書を信仰のよりどころとする「宗教改革」を始めた人物は誰ですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. ルター 2. ワシントン 3. ナポレオン 4. クビライ・ハン
-
- 問8 戦国大名の武田信玄が制定した「甲州法度之次第」のように、当時の有力な大名たちが独自の法律を定めた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 室町幕府の命令を全国の農民に知らせ、将軍の権威を強めるため 2. 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため 3. キリスト教の布教を制限し、外国との貿易を大名が独占するため 4. 朝廷から与えられた官位の順序に従って、家臣の序列を整理するため
-
- 問9 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)
1. 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度 2. 分国法 - 御成敗式目 - 武家諸法度 3. 御成敗式目 - 武家諸法度 - 分国法 4. 武家諸法度 - 分国法 - 御成敗式目
-
- 問10 15世紀に発生した応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したことで、家臣が主君を倒したり、地方の武士が守護大名を追放したりして実権を握る事例が全国で見られるようになりました。このように、実力のある者が上の身分の者の地位を奪う社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 下剋上 2. 尊王攘夷 3. 一揆 4. 版籍奉還
-
- 問11 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何とといいますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 宗教改革 2. ルネサンス 3. 十字軍 4. 産業革命
-
- 問12 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何とといいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
-
- 問13 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化した。 2. この武器は弓矢と呼ばれ、従来の騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。 3. この武器の伝来と同時にフランシスコ=ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。 4. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、最終輸入に頼っていた。
-
- 問14 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。 (2014年 沖縄公立入試 類似)
1. ポルトガル人 2. スペイン人 3. オランダ人 4. イギリス人
-
- 問15 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. フランシスコ=ザビエル 2. ルイス=フロイス 3. ヴァリニャーノ 4. マテオ=リッチ

答え合わせ・解説

問1	答え 1 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。
問2	答え 2 分国法	室町幕府の支配力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名は自らの領国を自立して治める必要がありました。そこで、家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、年貢の徴収、婚姻の制限などを定めた独自の法である分国法（家法）を制定しました。なお、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度や公事方御定書は江戸時代の法です。
問3	答え 1 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問4	答え 1 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。	ザビエルは1549年に鹿児島に上陸して布教を開始しました。織田信長と会見して京都での布教を許されたのはルイス＝フロイスらであり、少年使節の派遣を勧めたのはヴァリニャーノです。また、鉄砲を伝えたのは1543年に種子島に漂着したポルトガル人商人であり、宣教師ではありません。
問5	答え 1 分国法	戦国大名は、室町幕府の力が衰える中で、自らの領国を独自に統治する必要性に迫られました。そのため、家臣同士の争いの禁止や領民の管理、軍役の規定などを定めた「分国法（領国法）」を制定しました。朝倉氏のほか、今川氏の今川仮名目録や武田氏の甲州法度之次第などが有名です。
問6	答え 1 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問7	答え 1 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問8	答え 2 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため	戦国大名は、領国内での紛争を解決し、家臣団の結束を固めることで軍力を維持し、他国との戦いに備える必要がありました。「甲州法度之次第」では、人々の行動を取り締まることで国の統治を目指す姿勢が示されています。これは中央政府である幕府ではなく、各大名が独立して統治を行っていた実態を反映しています。
問9	答え 1 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問10	答え 1 下剋上	室町時代の中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。
問11	答え 1 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免罪符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問12	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようしました。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問13	答え 1 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一斉に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問14	答え 1 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問15	答え 1 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。